

時計台

SAPPORO INTERNATIONAL COMMUNICATION PLAZA FOUNDATION

前から

vol. 74
October/2011

公益法人 札幌国際プラザ

〒060-0001
札幌市中央区北1条西3丁目 札幌MNビル
Kita1 Nishi3, Chuo-ku, Sapporo 060-0001
JAPAN
TEL:011-211-3670 FAX:011-211-3673
E-mail: sjicpf@plaza-sapporo.or.jp
URL: http://www.plaza-sapporo.or.jp

北海道の森林保全と環境への配慮のため、道産間伐材を原料にした用紙、有害廃液の出ない「水なし印刷」及び大豆インキを使用して作成しています。



P02

■ 特集

IUMS 2011

国際微生物学連合2011会議が成功裏に終了



P05

■ 多文化交流

災害時に多言語で正しい情報を ほか



P08

■ 多文化交流

「ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo」を開催します ほか



P10

■ コンベンション

「再び札幌でMICEを！」 韓国市場への働きかけ ほか

IUMS 2011

道内で過去最大の国際学会
「国際微生物学連合2011会議」が成功裏に終了

国際微生物学連合2011会議(IUMS 2011)は、去る9月6日(火)から16日(金)まで札幌コンベンションセンターで開催され、国際微生物学連合としては道内で過去最大の65カ国・地域4,800人が参加し、成功裏に終了しました。同会議は、3年に一度開かれており、日本は21年ぶりの開催は、天皇陛下が記念式典にご臨席される栄誉ある会議となりました。限りなく広がる微生物の世界をメインテーマに、微生物や細菌、ウイルスに関する3,000件の研究成果が発表されたほか、市民向けの公開講座や展示、出前授業も行われ、微生物と身の周りの暮らしとの関わりなどをわかりやすく紹介するアウトリーチプログラムも多彩に実施されました。

国際プラザでは、2005年の日本への誘致の段階から関わり、札幌開催決定後6年間にわたり、プレイベントの企画実施など、主催者支援を行ってこまめなサポートを行いました。

今年3月の東日本大震災後における国内最大規模の国際会議開催成功を通して、札幌・北海道の安全性や市民のあたたかいおもてなしの心が世界に発信される良い機会となりました。

未来の微生物学者は君だ ~小中高校・出前授業~

会期中、海外の専門家が札幌市内の小中学校及び室蘭市内の高校で微生物やウイルスについてわかりやすく教える「出前授業」を行いました。札幌市立伏見小学校では、カナダ出身のシンディー・ナカツ氏が「バクテリア『ボブ』の冒険」というタイトルで授業を行い、児童は英語で歓迎の言葉を述べ、「伏見よさこいソーラン」を踊って歓迎しました。

シンディー氏は、土の中に住むバクテリアの「ボブ」が人間の皮膚、リンゴ、牛の胃の中などを冒険するストーリーを通じ、バクテリアは目には見えなくてもどこにでもいるとても身近な存在であることを児童に伝えました。授業に先立ち、バクテリアについて学習してきた児童は、積極的に質問をし、会場となった体育館は熱気に包まれました。

「『ボブ』の冒険に登場した」酸素を作るバクテリアのように、他にも自分で何か作ることのできるバクテリアはいますか?と質問した森茜さんは、「最初は微生物について理解できなかったけれど、先生がとてもわかりやすくお話しして下さったので、理科への関心がますます高まりました。」と、感想を述べました。シンディー氏は子供たちの好奇心に感心し、「みんなの中から将来必ず優秀な微生物学者になる人がいるでしょう」と期待を寄せ、エールを送りました。



シンディー氏は、土の中に住むバクテリアの「ボブ」が人間の皮膚、リンゴ、牛の胃の中などを冒険するストーリーを通じ、バクテリアは目には見えなくてもどこにでもいるとても身近な存在であることを児童に伝えました。授業に先立ち、バクテリアについて学習してきた児童は、積極的に質問をし、会場となった体育館は熱気に包まれました。

「『ボブ』の冒険に登場した」酸素を作るバクテリアのように、他にも自分で何か作ることのできるバクテリアはいますか?と質問した森茜さんは、「最初は微生物について理解できなかったけれど、先生がとてもわかりやすくお話しして下さったので、理科への関心がますます高まりました。」と、感想を述べました。シンディー氏は子供たちの好奇心に感心し、「みんなの中から将来必ず優秀な微生物学者になる人がいるでしょう」と期待を寄せ、エールを送りました。

IUMS出前授業一覧			
小学校	9月6日(火)	札幌市立伏見小学校6年生	150名
	9月7日(水)	札幌市立平岸高台小学校6年生	50名
	タイトル「バクテリア『ボブ』の冒険」 講師：シンディー・ナカツ氏(カナダ)		
中学校	9月7日(水)	札幌聖心女子学院中学校3年生	30名
	タイトル「高峰謙吉：アメリカバイオテクノロジーの父は日本人」 講師：ジョアン・ベネット氏(カナダ)		
高校	9月15日(木)	北海道立室蘭高等学校理科1年生	80名
	タイトル「新旧ウイルスへの医学的挑戦」 講師：ハインツ・ツァイハート氏(ドイツ)		

主催者インタビュー
IUMS2011国内組織委員長 富田房男氏(北海道大学名誉教授)

「3月の震災後、開催に向けて尽力をされたと思いますが、具体的には?」

「正直さまざまな意見がありました。日本は21年ぶりの開催は、天皇陛下が記念式典にご臨席される栄誉ある会議となりました。限りなく広がる微生物の世界をメインテーマに、微生物や細菌、ウイルスに関する3,000件の研究成果が発表されたほか、市民向けの公開講座や展示、出前授業も行われ、微生物と身の周りの暮らしとの関わりなどをわかりやすく紹介するアウトリーチプログラムも多彩に実施されました。」

「札幌開催決定からの6年間、どのような想いで準備に臨まれましたか?」

「会議開催が決まったときから、IUMSの大きな目標である、微生物の認知度を高めるために、やりたいことがありました。3年前にはキックオフイベントとして「微生物に関する市民セミナー」を開催。市民を対象とするアウトリーチプログラムの重要性を確信して、本番においても、市民公開講座や展示、出前授業などを多彩に企画しました。」

「市民公開講座には大勢の市民で会場があふれるばかりとなり、「出前授業」では、小学生が時間が足りなくなるほど質問を繰り返すほど、目に見えない微生物の存在に興味を持ってくれたことが嬉しかったですね。」「高峰・北里展示」では、日本が生んだ二人の偉人の業績を市民向けに初めて公開しました。アウトリーチプログラムは、IUMSにとっても初めての挑戦でしたが、その重要性があらた

めて認識されたといえます。市民によるおもてなしプログラムはいかがでしたか?」

「事前のボランティア説明会で、学会の概要や社交プログラムの大切さを説明しましたが、ボランティアの方々が熱意をもって協力してくださり、本当に感謝しています。札幌のボランティアのおもてなしの質の高さは、比類がないのではないのでしょうか。参加者からもたくさんのお礼が届いており、感謝の気持ちを市民の方々に伝えたい。」

「今回の成果をどう生かされますか?」

「今後においても、「出前授業」のように、研究者が現場に足を運び、好奇心ある子どもたちに発信していく「場づくり」を継続して取り組みたい。それが、IUMSを開催してくれた地域・札幌へのお礼の気持ちであり、それを実践していくことで、国際プラザの役割に大きく期待しています。」

「市民公開講座」に300名が参加

9月11日(日)、市民公開講座「限りなく広がる微生物の世界」が、札幌コンベンションセンターにて開催され、250名を超える市民と、約50名の学会関係者が参加し、会場を埋め尽くしました。

バイオアイランドと呼ばれる北海道にて本会議開催が決定した際に、国際組織委員会委員長の富田房男氏が筆頭に、「微生物は目に見えないが、私達の生活に深く関係している身近な存在である、という事を多くの方に伝えたい」という願いをもとに計画され、今回の開催に至りました。

広渡清吾日本学術会議会長の挨拶を皮切りに、国内外の著名な研究者7名(内、海外より2名)が講義を行いました。市民向けに構成されたプログラムは、鳥インフルエンザとパンデミック対策、バイオテロは可能か?、次々と登場する感染症、等といったテーマで展開され、興味を持ちやすく、身近に感じられる内容でした。英語での講義の際は、同時通訳レシーバーを使用し、参加者は各講義を熱心に聴講していました。

講義の後は質疑応答の時間も設け、篠田純男岡山大学名誉教授の閉講の辞で、成功裏に幕を下ろしました。



「市民公開講座」に300名が参加

9月11日(日)、市民公開講座「限りなく広がる微生物の世界」が、札幌コンベンションセンターにて開催され、250名を超える市民と、約50名の学会関係者が参加し、会場を埋め尽くしました。

バイオアイランドと呼ばれる北海道にて本会議開催が決定した際に、国際組織委員会委員長の富田房男氏が筆頭に、「微生物は目に見えないが、私達の生活に深く関係している身近な存在である、という事を多くの方に伝えたい」という願いをもとに計画され、今回の開催に至りました。

広渡清吾日本学術会議会長の挨拶を皮切りに、国内外の著名な研究者7名(内、海外より2名)が講義を行いました。市民向けに構成されたプログラムは、鳥インフルエンザとパンデミック対策、バイオテロは可能か?、次々と登場する感染症、等といったテーマで展開され、興味を持ちやすく、身近に感じられる内容でした。英語での講義の際は、同時通訳レシーバーを使用し、参加者は各講義を熱心に聴講していました。

講義の後は質疑応答の時間も設け、篠田純男岡山大学名誉教授の閉講の辞で、成功裏に幕を下ろしました。

多彩な日本文化体験に感激

IUMS2011の参加者及び同伴者へのおもてなしプログラムの一環として、「着付」、「華道」、「茶道」、「書道」の日本文化体験プログラムを全15回実施し、157名が参加、延べ100名の市民ボランティアが活動しました。

着付体験実施時には、色とりどりの着物の姿が会場に華を添え、拍手が沸き起こる場面も見られました。華道と書道の会場では、熱心に作品に取り組む参加者の姿が目を引き、自身の作品を写真に収め、互いの作品について話すなど、参加者同士の交流の場にもなっていました。また、日本文化に強い関心を持つ参加者も多く、市民ボランティアの話に熱心に耳を傾ける様子が印象的でした。



また、日本文化に強い関心を持つ参加者も多く、市民ボランティアの話に熱心に耳を傾ける様子が印象的でした。

日本文化体験プログラムの参加者からは、会議終了後も日本の伝統文化に触れる貴重な経験であったという声とともに、市民ボランティアのおもてなしの心を感じたという感謝の言葉が多数寄せられています。

日本文化体験ボランティアの池上代表は「参加者との交流を楽しむことができ、言葉が通じなくても身振り手振りでは十分感じ合えたと改めて感じました。毎回、日本文化体験に参加した人から、札幌市民の温かいおもてなしの心を高く評価されるが、これは、「札幌のカラー」として誇れることですね」と語りました。



「市民公開講座」に300名が参加

9月11日(日)、市民公開講座「限りなく広がる微生物の世界」が、札幌コンベンションセンターにて開催され、250名を超える市民と、約50名の学会関係者が参加し、会場を埋め尽くしました。

バイオアイランドと呼ばれる北海道にて本会議開催が決定した際に、国際組織委員会委員長の富田房男氏が筆頭に、「微生物は目に見えないが、私達の生活に深く関係している身近な存在である、という事を多くの方に伝えたい」という願いをもとに計画され、今回の開催に至りました。

広渡清吾日本学術会議会長の挨拶を皮切りに、国内外の著名な研究者7名(内、海外より2名)が講義を行いました。市民向けに構成されたプログラムは、鳥インフルエンザとパンデミック対策、バイオテロは可能か?、次々と登場する感染症、等といったテーマで展開され、興味を持ちやすく、身近に感じられる内容でした。英語での講義の際は、同時通訳レシーバーを使用し、参加者は各講義を熱心に聴講していました。

講義の後は質疑応答の時間も設け、篠田純男岡山大学名誉教授の閉講の辞で、成功裏に幕を下ろしました。

過去最大のシティウォークツアー

IUMS2011の参加者に対し、市民ボランティアガイドによるテレビ塔、赤れんが、時計台、狸小路などの観光名所を歩いてめぐりツアーを実施しました。今回は、4日間で214名が参加する過去最大規模のシティウォークツアーとなり、延べ95名のボランティアが案内しました。

シティウォークツアーは、徒歩で市内をめぐることの街の様子を知り、札幌滞在を快適なものにするばかりでなく、会議参加者と市民ボランティアとの交流の場でもあります。ツアー中は、札幌の街に関する話のほか、参加者の出身国や家族の話などで会話が弾む場面も多数見られました。参加者から、地元市民の温かいおもてなしと札幌の魅力を知る良いツアーであったというお礼の言葉が寄せられるなど好評でした。



また、ツアーで訪れた札幌テレビ塔の担当者は「改めてMICEが観光分野にもたらす効果は大きいことを実感し、海外からのお客様の来訪を通し、今後の受入体制を考える良い刺激になりました」と話していました。

国際プラザでは、今後も、市民ボランティアとともに、札幌の温かいおもてなしの心を大切に、誘致・支援活動に取り組んでいきます。



「市民公開講座」に300名が参加

9月11日(日)、市民公開講座「限りなく広がる微生物の世界」が、札幌コンベンションセンターにて開催され、250名を超える市民と、約50名の学会関係者が参加し、会場を埋め尽くしました。

バイオアイランドと呼ばれる北海道にて本会議開催が決定した際に、国際組織委員会委員長の富田房男氏が筆頭に、「微生物は目に見えないが、私達の生活に深く関係している身近な存在である、という事を多くの方に伝えたい」という願いをもとに計画され、今回の開催に至りました。

広渡清吾日本学術会議会長の挨拶を皮切りに、国内外の著名な研究者7名(内、海外より2名)が講義を行いました。市民向けに構成されたプログラムは、鳥インフルエンザとパンデミック対策、バイオテロは可能か?、次々と登場する感染症、等といったテーマで展開され、興味を持ちやすく、身近に感じられる内容でした。英語での講義の際は、同時通訳レシーバーを使用し、参加者は各講義を熱心に聴講していました。

講義の後は質疑応答の時間も設け、篠田純男岡山大学名誉教授の閉講の辞で、成功裏に幕を下ろしました。

市民によるおもてなし

会期中、メイン会場である札幌コンベンションセンター内において、参加者へのおもてなしの一環として、参加者登録のサポートとセッションデスクの設置をしました。延べ30名を超える市民ボランティアにより、参加者へのコンベンションパックの配布を行い、セッションデスクでは、市内・道内の見どころやおすすめの居酒屋などの情報を提供するだけでなく、一人ひとりの希望や相談にきめ細やかに対応し、デスクを訪れた参加者は、みな笑顔がこぼれていました。

また、札幌市や商工会議所・市民ボランティア協会などから構成される札幌おもてなし委員会が、期間を合わせて実施した、MICEおもてなし月間を通して、市民一人ひとりが思いを込めて作った折り紙と市長からのウェルカムメッセージを手渡ししました。カエルやバラ、中には、はんにゃの面など、一枚の紙から創り出される様々な形の折り紙の精密さや華やかさに、受け取った参加者からは、「素晴らしい!是非、孫に持って帰りたい。」など、多くの感嘆の声が上がっていました。



多文化共生における情報発信を考える

多文化共生ワークショップ

多文化共生の地域づくりを進めるには、市民団体や自治体などの多様な担い手の連携が不可欠です。ネットワーク作りの場として昨年度より開催しているのが、多文化共生ワークショップです。

今年度1回目のワークショップは5月21日(土)に開催し、市民団体メンバー、自治体職員など、27名が参加しました。

今回は多文化共生センター大阪代表理事の田村太郎さんを講師にお迎えし、多文化共生における情報発信のあり方について講演いただきました。情報発信の目的という基本的な考えから、メッセージの作り方や外国人住民への情報発信の事例について等、有意義なお話を伺いました。

国際プラザからは、3月11日(金)~4月30日(土)滋賀県大津市に設置された「東北地方太平洋沖地震多言語支援センター」にて活動した職員より、活動報告を行いました。

グループワークでは4つのテーマに分かれ、情報発信の現状や課題、望まれる行動変容等について活発な意見交換が行われました。

また、6月からはワークショップ参加団体間でメーリングリストを立ち上げました。より日常的なつながり、情報交換に活用されることを期待します。



グループディスカッションの様子

災害時に多言語で正しい情報を

多言語支援センターの活動

3月11日の地震発生直後、NPO法人多文化共生マネージャー全国協議会は、外国人被災者らの支援に取り組むため、滋賀県大津市にある全国市町村国際文化研修所内に「東北地方太平洋沖地震多言語支援センター」を設置しました。センターは全国の国際交流協会やNPOのスタッフで運営され、国際プラザからもスタッフを1名派遣し、センター運営の協力を行いました。



ウェブサイトでの多言語情報提供作業

センターでは、日本語を母語としない外国人の方々に、災害関連情報を11言語に翻訳してウェブサイトで配信。また、6言語による多言語ホットラインを開設して外国人の方々からの電話相談に対応しました。

4月末日でセンターはその活動を終了しましたが、配信した外国人向け災害情報のうち、今後の災害時にも有用なものを一般化した「多言語災害情報文例集」、東日本大震災における外国人住民災害支援情報や参考となるリンクを掲載した「災害支援情報」をご覧いただけるサイトが、9月6日に(財)自治体国際化協会ホームページ内に開設されました。

「外国人住民災害支援情報」
http://www.clair.or.jp/tabunka/shinsai/

子育てで国際交流

赤ちゃんを育てる外国籍と日本人のお父さんお母さんの交流会

7月15日(金)、札幌市子ども未来局子育て支援総合センター、国際プラザの共催により、子育て支援総合センター乳児室において、赤ちゃんを育てる日本人と外国籍の保護者の交流会を初めて開催しました。

子育て支援総合センターを初めて利用する参加者の方々には、早めにお越しただいてセンターの利用方法を案内しました。交流会には外国籍の親子6組と日本人親子10組が参加。参加者がそれぞれ簡単な英語で自己紹介をした後、日本語と英語に

多文化な子どもたちの居場所づくりを目指して

なつやすみサマースクール

この夏、国際プラザの会議室に元気な子ども達の声が響きました。8月2日(火)、5日(金)、9日(火)、12日(金)の計4日間、多言語・多文化を背景に持つ小学生を対象に「なつやすみサマースクール」を開催し、中国、フィリピン、フランス、ロシア等のバックグラウンドを持つ小学生延べ29名が参加しました。

各日、外国語ボランティア6名のサポートのもと、子ども達は国語や算数など夏休みの宿題に熱心に取り組みました。宿題の後には、かるたや五十音を使ったゲーム等で楽しみました。両親が外国人の子ども、両親

正しい防災知識を身につけよう!

防災ツアー

国際プラザでは、札幌在住の外国籍市民への防災支援を目的に防災ツアーを行っています。

4月16日(土)には外国語ボランティアグループSKY、北海道大学と協力し、来札したばかりの留学生を対象とした防災センター見学ツアーを実施しました。当日は6カ国6名の留学生が参加し、札幌市民防災センターにて、地震、消火、煙道通過を疑似体験し、災害時の正しい行動を学びました。

9月1日(木)の全国「防災の日」には札幌市総合防災訓練に22名の外国籍市民が参加し、消火訓練、AED訓練などに取り組みました。「避難所」訓練では、実際の避難所で使われるダンボール製の間仕切りの中に入り、避難所の役割等の説明を受けました。中には「避難所」がどうい場所かわからないという方もいて、「大変勉強になった。」との声が聞かれました。

東日本大震災の影響もあつたためか参加者の防災への意識も高く、たくさん質問が飛び交いました。



避難所体験をする参加者たち

よる手遊びや絵本の読み聞かせを実施し、最後はフリートークの時間を設け、自由な会話を楽しみました。

今回は日本語の堪能な外国籍参加者が多かったため、外国語が苦手という参加者の方も、安心して交流できた様子でした。

参加者からは「外国人の親子と知り合う機会はなかなかないので良かったです。」「また参加したい、一度きりでなく継続して開催してほしい。」等の声がかれました。



子ども達を囲んで交流しました

親のどちらかが外国人の子ども、海外生活が長かった子ども、来日間もない子どもなど、その背景は様々ですが、みんな一緒に楽しく過ごしました。

最終日には、日本人小学生も参加。「外国のゲームであそぼう!」では、アメリカ、中国、ドイツ、ロシアの札幌市国際交流員がそれぞれの出身国のゲームを紹介しました。参加した子ども達はゲームをすぐに覚えて、元気いっぱい交流を深めました。

「初めてのゲームで楽しかった。」「また参加したい。」という嬉しい声も聞かれました。

国際プラザでは、今後も教育支援に関する事業に取り組んでいきます。



かるたは日本語の勉強にもなりました

災害発生時の国際プラザの対応について

東日本大震災発生以降、防災・減災に向けた取り組み・意識が、特に社会全体で高まるなか、国際プラザにおいても、災害発生時に市民の安全確保にどのように貢献することができているか、検討を行っています。具体的には、①災害発生時にも業務が継続できるような体制の確保、②市民の安全確保に貢献する活動、の2点について検討を進めています。

多言語FM放送「みんなのラジオ」

札幌に住む外国人住民や国際交流に関わる皆さんのインタビューをお届けしている「みんなのラジオ」。放送5年目をむかえる今年度は、2011年7月1日(金)~2012年1月27日(金)まで毎週金曜日15:45~15:55、計30回の放送を行っています。

放送は毎月第1週英語、第2週中国語、第3週韓国語、第4週・第5週は、その他の言語と、やさしい日本語で行っています。パーソナリティーの谷口紗代さんと国際交流員を中心に、札幌に住む外国人の皆さんの生の声を市内FM4局で結んでお届けしています。また、プラザからの最新のイベント情報もお知らせしています。さらに24時間いつでも聴けるウェブ版も好評です。

札幌国際プラザhttp://www.plaza-sapporo.or.jp/citizen_j/radio/radio.html
または サッポロウェブラジオ<http://www.sora43.jp/>

東日本大震災募金事業

国際プラザでは、東日本大震災における被災地の救援・復興支援を目的に、国際プラザ交流サロンに募金箱を設置し、3月12日(土)から4月30日(土)まで「東日本大震災募金」を実施いたしました。多くの皆さまの温かいご厚志・ご協力により、募金額の総額は98,000円にのぼり、お預かりした募金は「日本赤十字社」に寄付いたしましたことをご報告申し上げます。

一日も早い被災地の復興を願うとともに、ご協力いただきました皆さまに心より感謝いたします。ありがとうございました。

8月21日(日)、2011年札幌秋祭り実行委員会の主催により、大通公園において、第11回さっぽろ秋祭り(ヤンガー)まつりを開催しました。ヤンガーとは中国農村部の田植え踊りが起源で、札幌では中国帰国者らが2001年から毎年、祭りを開催しています。色鮮やかな衣装に身を包んだ踊り手たちは、太鼓やドラの音に合わせて会場を練り歩き、グループごとに秋祭り、二胡の演奏、合唱、太極剣(たいきょくつるぎ)等を披露しました。さらに、タイ、アイヌ民族の出演者がそれぞれの伝統的な踊りや楽器演奏を披露し、会場を訪れた皆さんと交流を深めました。祭りの最後には参加者や観客が一緒に踊り、交流の輪を広げました。



フィナーレ

このうち、「市民の安全確保に貢献する活動」については、行政機関との連携のもと、被災した外国籍市民に対するニーズ調査(巡回活動等)や、さまざまなメディアを通じて多言語による情報コミュニケーションを継続することなど、言語や文化・風習の壁を超えるという視点から取り組むこととなります。

国際プラザは、これまでのさまざまな活動成果を生かし、市民ひとりひとりが災害発生時にいち早く安全を確保し、安心した暮らしを取り戻すことができるよう取り組んでまいります。

新たな交流が始まる 「韓国 大田・市民訪問の旅」

10月7日(金)から12日(水)の6日間、昨年(10月)の姉妹都市提携を記念して、公募による市民訪問団54名が韓国の大田(テジョン)広域市を訪問しました。



忠南大の学生と

札幌市からは市民訪問団だけでなく、上田市長をはじめ、議員・経済交流団など総勢約100名が同時期に訪問。地元のお祭り会場での記念式典や祝賀会、記念植樹など、大田広域市長をはじめ多くの方々から温かい歓迎を受けました。

市民訪問団は、国際プラザの姉妹提携団体である国際交流文化院の協力を得て、現地の小学校と大学を訪問し、生徒や学生との交流を行うことができ、今後の友好交流につながる良い機会となりました。



校庭で小学生と交流する参加者

レッツトークEnglish 学生スペシャル

3月28日(月)、国際プラザにおいて、レッツトークEnglish学生スペシャルが開催されました。学生スペシャルは、普段のレッツトークプログラムには参加が難しい学生の皆さんに異文化交流の場を提供するため、実施しています。

当日は高校生や大学生33名が参加し、札幌在住の英語ネイティブの方やALTの方12名と一緒にトークを楽しみました。自己紹介、学校生活、将来の夢などテーマについて、また自由にトピックを設定し、グルーブ替えをしながら1時間半の開催時間が足りない程、熱心に英語で話をしていました。アンケートにも「とても楽しかった」「また参加したいです」との多くの声をいただき、日本人・外国人双方にとって交流を深める良い機会となりました。



英会話を楽しむ学生たち

カルチャーナイト2011参加事業 「5カ国のおばけを楽しもう」

7月15日(金)、国際プラザ交流サロンにおいて、カルチャーナイト2011参加事業「5カ国のおばけを楽しもう」を開催しました。

これは札幌市の姉妹都市があるロシア、ドイツ、韓国、中国、アメリカ5カ国のおばけを紹介するもので、小・中学生を対象に行いました。

当日は、25名の子どもの保護者が参加。ロシアのアニメ、ドイツのグリム童話の読み聞かせ、韓国のおばけの歌、



ビンゴを楽しむ様子

アメリカンコーナー 「大統領ってどんな人？」

アメリカンコーナーでは、アメリカ文化等を市民の皆さんに知っていただくために様々なイベントを行っています。コーナーイベントとしては恒例となったDVD上映会や、読書会、子どもたちへの絵本読み聞かせのほか、8月6日(土)には夏休み企画として大統領とホワイトハウスについて学ぶイベントが開かれました。

当日は小学校4～6年生の子ども達7名が、在札幌米総領事館のジョン・テイラー領事たちと一緒に、福笑いやホワイトハウスにまつわるクイズに取り組みました。最初は少し緊張気味だった子供たちも次第に



福笑いで遊ぶ子どもたち

「各国を知るセミナー」

国際プラザでは、交流サロンにおいて定期的に「各国を知るセミナー」を開催しています。

3月29日(火)には「第35回韓国を知るセミナー」を開催しました。「韓国のことわざ」をテーマに、韓国出身の札幌市国際交流員、カン・ミンジョンさんが、日本と



韓国を知るセミナー

韓国のことわざを比較しながら韓国の人々の考え方、昔と今の違いなどについて講演しました。選択式のクイズを出しながら、ときにユーモアも交えたプレゼンテーションは参加者にも好評で、「時間があつたという間だった」「韓国のことをもっと知りたいと思っただ」などの感想が寄せられました。

7月25日(月)には「第30回ロシアを知るセミナー」を開催し、ロシア出身の国際交流員、イリーナ・シユクリナさんが、「ロシアの七



ロシアを知るセミナー

不思議」について、写真や映像を交えながら紹介しました。当日は70名の参加者で埋め尽くされ、講演後も積極的に質問する姿が見られました。7月末で国

際交流員を離任したイリーナさんの、最後の講演となりました。7月30日(土)、国際プラザとフィンランドセンター北海道事務所との共催により、初めて「フィンランドを知るセミナー」を開催しました。フィンランドセンター(東京)所長のヘイッキ・マキパー博士を講師にお迎えし、「フィンランドの光」をテーマにオーロラや白夜など、自然の光にまつわるお話を伺いました。セミナー広報にあたっては、それぞれフィンランドに関わりのある、イルムス札幌(株)日本旅行北海道、ミサワホーム北海道(株)の3社にご協力いただき、定員を超える80名の市民にご参加いただくことができました。講演後は、政治・教育・料理・デザインなど幅広い分野に関する質問が出され、フィンランドへの関心の高さがうかがわれました。

8月25日(木)には「アメリカを知るセミナー」を開催。アメリカ出身の国際交流員、ハイデイ・フェルダーさんにとって、交流員着任後、初めて行うセミナーとなりました。「アメリカを車で横断しよう！」をテーマに、アメリカ西海岸のドライブルートや絶景スポットなどを、動画も交えながら紹介しました。ハイデイさんのユーモアあふれる説明に、約50名の参加者の笑い声が聞こえる和やかなセミナーとなりました。



フィンランドを知るセミナー

札幌圏大学国際交流 フォーラム

「総会・スタッフセミナー」

札幌圏の大学・短期大学が国際交流等に関する情報交換を目的として1989年に設立した札幌圏大学国際交流フォーラムは、現在23の大学および短期大学が会員校となっており、事務局を国際プラザに置いて活動しています。今年度の総会を5月20日(金)に開催し、決算報告や予算案の他、各大学との共催事業の活発化を目指すための規程等を審議しました。

引き続き、スタッフセミナーを開催し、44名が参加。「多文化共生社会における大学職員へのアドバイス」をテーマに多文化共生センター大阪の代表理事 田村太郎さんより、3月の東日本大震災時の対応を交えながら、災害時の留学生支援のポイントや、多文化共生時代の大学の役割について示唆に富むお話をいただきました。



スタッフセミナーの様子

中国の西遊記、アメリカのビンゴゲームなど、様々な外国のおばけを楽しんでもらいました。

これからも、多様な子ども向けのイベントを増やし、子どもたちが国際交流を楽しめる場を提供してまいります。ぜひ広報さっぽろ、国際プラザのホームページをチェックしてください。では、来年もお楽しみに！

仲良くなり、顔のパーツなど必要な英単語もすぐに覚えて、協力しながら福笑いに取り組んでいました。クイズでは、積極的に質問をする姿も見られました。アンケートには「もっと英語を勉強したい」「ホワイトハウスのことを学べてよかった」などの声も寄せられました。最後には、領事たちと一緒に写真を撮ったり、英会話を楽しんだりしました。子どもたちにとっては夏休みの良い思い出の一つになったようです。

日本を知ろう、 地域と繋がろう

「留学生支援事業」

国際プラザでは、地域で気軽に参加できる異文化交流イベントを通じて、外国人と地域住民の繋がりを作るような取組みを進めています。

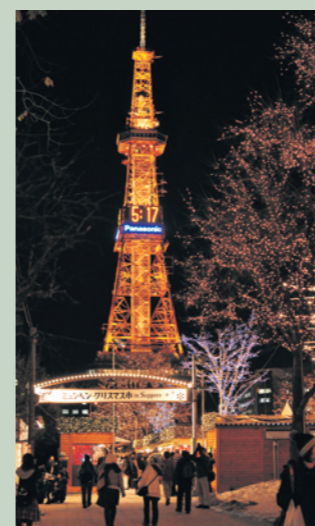
6月21日(火)には、北海道大学国際本部、外国語ボランティアグループとの共催で、日本の文化に深く根差した「味噌」を、味噌汁や味噌ディップなどの試食を交えて紹介。約50名の留学生が参加し、味噌や日本の調味料を味わいました。

7月30日(土)は「日本の夏祭り」をテーマに、幌北連合町内会、幌北ふるさと夏祭り実行委員会、外国語ボランティアグループの協力で開催。12名の留学生は浴衣やハッピを着て、幌北ふるさと夏祭りに参加し、地域のひとと一緒に盆踊りにも挑戦しました。どちらのイベントでも、日本人にとっては身近であり外国人にとっては新鮮な文化を話題に、自然な会話が生まれました。参加した留学生たちは、ボランティアや地域の方々との交流を通して日本文化への理解と親しみを深め、コミュニケーションの一員として今後も積極的に地域行事に関わりたくと話していました。



オリジナルうちわ作りにも挑戦

第10回「ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo」を開催します。



昨年のクリスマス市

ドイツでは中世・近代時代から、クリスマスに近づくほとんどの町で市場が開かれました。寒い冬になると、その市場でブーツ・温かい服等の生活に必要なものを販売しました。数百年の時を経て、現代のドイツではデパートやスーパーマーケットで生活用品を買うようになり、クリスマス市では主に飾り物と美味しい食べ物や飲み物を販売しています。ドイツで有名なニュルンベルク、ドレスデンやミュンヘンのクリスマス市にはドイツ国内や海外からの観光客も多く、それぞれの町の恒例イベントの一つとなっています。

日本にはクリスマス市の伝統はありませんが、札幌

の「ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo」は今年ですでに10回目の開催を迎えます。2002年にミュンヘンとの姉妹都市提携30周年を記念して始まったイベントで、毎年大通公園2丁目ドイツをはじめとする海外および地元の出店者によるクリスマスグッズ、グリューワイン、ソーセージやローストアーモンドなどの飲食品を販売します。今年の開催期間は11月25日(金)～12月24日(土)の30日間で、今までで一番長いクリスマス市になります。会場ではこれまで同様さまざまなイベントを計画していますが、今年は、地下歩行空間でもクリスマス市の雰囲気を感じることができそうですので、皆様のお越しをお待ちしております。



今年のポスター

Ganbare Nippon、「ミュンヘンの友を迎えた室内楽」

～東日本震災追悼サロンコンサート～

7月10日(日)に札幌姉妹都市協会との共催で、国際プラザ交流サロンにおいて、札幌の姉妹都市ミュンヘン在住のレベッカ・ラスト氏、フリードリッヒ・エーデルマン氏によるチェロとファゴットのチャリティーコンサートが開かれました。約80名の参加者の皆さんが演奏を楽しみましたが、中でも、「鳥の歌」の演奏の際には、作曲家パブロ・カザルスの平和への思いと、演奏者の震災被災者追悼の思いも紹介され、深い感動を誘いました。また、東日本震災の被災者や被災地の復興を支援するため、参加者からの募金と、ご夫妻からの書籍・CDの売り上げの一部計61,554円を日本赤十字社札幌市地区本部へ寄付いたしました。ご協力ありがとうございました。



演奏に魅了されました



サインを快く応じるお二人

当日の演奏曲 J. B. ルイエ…組曲、W. A. モーツァルト…ソナタ 変ロ長調 KV 292、パブロ・カザルス…鳥の歌、L. ボツケリーニ…ソナタハ長調、日本のうた

両都市のかけはしとなる人材に

～大学生中国文化語学研修派遣プログラム2011～

札幌姉妹都市協会、札幌圏大学国際交流フォーラムとの共催にて8月15日(月)～8月27日(土)の日程で、札幌市の友好都市である中国・瀋陽市に札幌圏の6大学10名の大学生を派遣しました。今年度で6回目となるこのプログラムは、語学だけでなく歴史や文化の学習、交流を通じて、両国の関係をより深く理解し、今後の両都市間の発展と交流のために活躍する人材を育成することを目的としています。現地では、遼寧大学での語学講座、ホームビジット、瀋陽故宮や九・一八歴史博物館の見学をしました。日本語を学ぶ中国人学生との交流も数多くありました。

また、初めての取組みとして瀋陽市人民政府外事弁公室、在瀋陽日本国総領事館、北海道銀行瀋陽駐在員事務所等インターンを行い、両国をつなぐ多様な業務を体験。また、日本政府無償資金協力で建設された撫順市郊外の小中学校を訪問し、生徒たちとの交流を行いました。



子どもたちとの交流 (撫順市)

3千名の大規模国際会議の札幌開催決定

～2014年AOGS～

国際プラザ・コンベンションビューローでは、2014年のアジア・大洋州地球科学学会(AOGS)の年次大会の札幌開催に向け、誘致活動を行ってきましたが、去る9月8日(木)に正式に開催が決定しました。同会議には、約40カ国・地域、3,000名の参加が見込まれており、地震、惑星科学、海洋科学など、地球科学に關係した多岐にわたる研究成果が発表されます。

国際会議開催支援続々

～ITER Annual Meetings 2011 & Viscosity Solution Methods for Asymptotic～

国際プラザでは、札幌で開催される国際会議に対し、様々な開催支援を行っております。今回も市民ボランティアのみならず、協力のものと、同伴者向けのおもてなしプログラムを実施しました。

9月5日(月)から9日(金)まで42カ国、約100名が参加して開催された国際長期生態学ネットワーク(ITER)年次会議2011では、同伴者向けに華道体験とシティウォークツアーを実施しました。華道体験に参加した方からは、花の名前や華道の基本ルールに関する熱心な質問が上がり、とても楽しかったと好評でした。

また、9月6日(火)からは、Viscosity Solution Methods for Asymptoticが北



華道体験プログラムで初めて生け花に挑戦する参加者

札幌開催の決定にあたり、9月14日(水)に同学会の事務局長であるシンガポール国立大学教授ヒジツ氏が来札し、生島典明副市長に開催決定の報告をしました。ヒジツ氏は、同学会は、市民向け公開講座や地元学校へ出向いて実施する出前授業などアウトリーチプログラムにも積極的に取り組んでおり、札幌開催の際にもぜひ、実現したいと話していました。

国際プラザでは、国際微生物学連合2011会議の開催経験を生かし、市民ボランティアと共に開催成功の一助となるため準備を進めています。

北海道大学にて開催され、赤れんが、大通公園、千歳鶴酒ミュージアムなどをめぐるシティウォークツアーを行いました。

市民ボランティアによる温かいおもてなしと交流が、札幌での滞在を思い出深いものになっています。今後も国際会議誘致成功へつなげるため、支援活動に取り組んでいきます。

「ようこそさっぽろMICE大作戦」&ロゴマーク発表!

国際プラザでは、設立20周年を記念し、MICEについてより多くの市民に知ってもらうため、9月1日(木)から15日(木)まで札幌駅前地下歩行空間において「ようこそさっぽろMICE大作戦」というテーマで展示を行いました。9月2日(金)には「さっぽろMICE」のロゴマークの除幕式を行い、札幌のMICEを支えてきた民間企業やボランティアが見守る中、ロゴマークがお披露目されました。このロゴマークは、人々が集い、輪(和)になって雪の結晶(成果)をつくるという「さっぽろMICE」の魅力を表現しています。

この展示では、札幌のMICEの魅力を紹介するパネルを設置したほか、国際プラザ学生サポー



地下歩行空間で市民に「MICE」をPR

ターのアイデアも盛り込んだMICEを紹介する「さっぽろMICE」のロゴマークを発表しました。ロゴマークは、人々が集い、輪(和)になって雪の結晶(成果)をつくるという「さっぽろMICE」の魅力を表現しています。

また、同時期に開催された国際微生物学連合2011会議の歓迎バナーを設け、市民公開講座のPRを行ったり、シティウォークツアーのコースの一部として参加者に記念品を渡すなど、会議を盛り上げることに貢献しました。

今回の展示では、国際プラザのこれまでの20年間のMICEへの取り組みを紹介しました。これからの20年、ロゴマークのように人が集まるMICEを益々推進すること、雪の結晶のような成果を結んでいきたいと考えています。

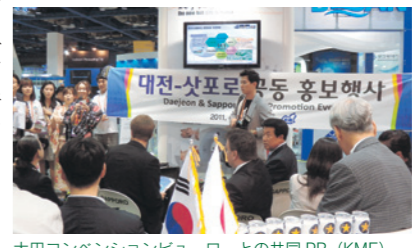


「さっぽろMICE」ロゴマーク除幕式。上田理事長(左)が手にしているのがロゴマーク

「再び札幌でMICEを！」 韓国市場への働きかけ

東日本大震災以降、韓国からのインセンティブツアーが相次いで中止になった中、国際プラザ・コンベンションビューローでは、風評被害を払しょくし、再び札幌を訪れ、でもらうための取り組みを行ってきました。

第一弾として、6月29日(水)、30日(木)にソウルで行われた「KOREA MICE EXPO 2011」(以下、KME)にNPO法人コンベンション札幌ネットワーク及び加盟企業3社と共同で出展し、官民を挙げて札幌の安全性とMICE適地であることを一人一人のバイヤーに強く訴えかけました。また、期間中、大田コンベンションビューロー、札幌市と共同でPRイベント「Happy Hour」を行い、「おもてなしMICE」とい



大田コンベンションビューローとの共同PR (KME)



小樽で「すし握り体験」をする韓国 MICE 関係者

うテーマで札幌独自の取り組みを海外の有方バイヤーに紹介しました。第二弾として、7月上旬に韓国の大手保険会社及び旅行社等5社を直接訪問し、札幌での開催が中止になったインセンティブツアーを再度札幌で開催してもらえよう働きかけました。第三弾として、7月21日(木)から24日(日)まで行われた観光庁主催のビジネストジャパン緊急対応事業「韓国MICE関係者北海道視察」に企画の段階から関わり、同行しながらヒアリングを行うとともに安全な札幌・北海道で開催するインセンティブツアーの魅力を伝えました。

この視察では、今年3月に札幌市と「MICEにおける連携・協力」についての覚書を交わした小樽市をはじめ、各自治体や地元企業が丸となり、ユニークベニューやチームビルディングを提案し、参加者からは「早く札幌でインセンティブツアーを開催したい」という声が上がりました。

このような取り組みが功を奏し、視察に参加した企業のうち一社が、10月にインセンティブツアーを札幌で開催すること、大田コンベンションビューローと共同でPRイベント「Happy Hour」を行い、「おもてなしMICE」とい



世界中から訪れるバイヤーとの商談 (KME)

ニセコエリアとの連携で、 MICE誘致を強化

去る7月22日(金)、札幌市は、倶知安町・ニセコ町と、「MICEにおける連携・協力」についての覚書を交わしました。

国際プラザでは、以前から倶知安町・ニセコ町の企業や団体と協働で、同エリアの持つ豊富な自然や充実したアウトドア施設等をインセンティブツアーのアクティビティや、ユニークベニュー(そこにはかない特別感を味わえる場所・会場)として活用し、オリジナルプログラム等を開発するなど、沢山のMICE参加者へのプログラム創りを行ってきました。

札幌にとっては、本年3月に締結された小樽との覚書に続き、二つ目のMICEに関する広域連携の輪が広がり、3地域での緊密な情報交換や人的交流を進めるなど、MICEの誘致に欠かせない受入基盤の強化を図っていきます。

国際プラザは、ニセコエリアや小樽との広域での連携を面的に推進しながら深めて行き、より多くの集客を目指していく予定です。年内には3つのエリアを中心とした「ユニークMICEガイド」をとりまとめ、プロモーションツールとして活用していきたいと考えています。

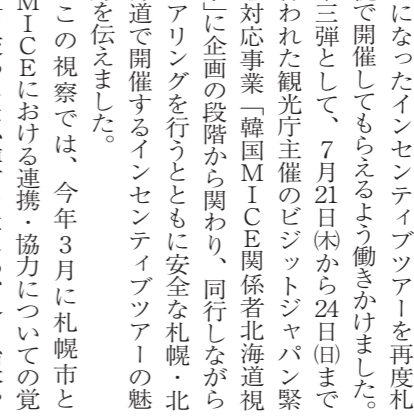


覚書を交換 (ニセコにて)

「オール札幌」で中国市場の 開拓に向けた環境づくりを 中国MICE市場の開拓にかかる意見交換会

中国では、近年の著しい経済成長に伴い、中国の国内企業や外資系企業の中でインセンティブツアー(研修旅行・報奨旅行)の企画・実施件数も増加しています。それに伴い、日本や世界各国において、中国からのインセンティブツアーをはじめ、中国からのインセンティブツアーに向けた競争が激化しています。

そうした状況の中、国際プラザ・コンベンションビューローでは、札幌とその周辺の自治体や民間企業・団体などが一体となって誘致に向けた環境づくりを行うことを目的として、8月10日(水)に「中国



30名が参加した第1回意見交換会

「MICE都市さっぽろ」の 魅力をPR! CIBTM2011出展

国際プラザ・コンベンションビューローでは、中国からのMICE誘致を強化するため、8月30日(火)〜9月1日(水)に中国北京市において開催された「インセンティブツアーと国際会議の専門見本市(CIBTM 2011)」に出展しました。

今回のCIBTMには、世界各国・地域から約400企業・団体等が出展しました。また、インセンティブツアーを取り扱う旅行社や企業関係者、国際会議の主催者など約300の企業・団体のバイヤーが参加



JAPAN ブース掘りの法被でPR

環境に配慮した 会議運営の推進 札幌市グリーンMICE推進奨励制度開始

国際プラザ・コンベンションビューローでは、環境配慮型の会議運営に対する主催者や会議参加者への意識喚起を目的に、グリーンMICE(環境に配慮した会議運営)を推進し、主催者をサポートしてきました。

その推進活動を一層強化するため札幌市による新たな制度が誕生しました。「札幌

JICA地域別研修 セルビア、マケドニアより 研修員が参加

国際プラザでは、8月12日(金)より3週間、JICA(独立行政法人国際協力機構)地域別研修「南東欧地域・自然環境保全に配慮した観光計画・振興」コースの実施受入を行い、2カ国(セルビアとマケドニア)から2名の研修員を受け入れました。

研修参加対象国である南東欧地域では、観光が有望な産業となっており、持続的な経済発展を目指しています。本コースは、観光分野に携わる行政官を対象にし、豊富な観光資源を有効に活用する観光計画・振興策の策定能力向上を目的として実施されています。

札幌国際大学観光学部・市岡浩子教授をコースリーダーに、「サステイナブルツーリズム(持続可能な観光振興)」を主要テーマとしたカリキュラム編成し、研修を実施しました。道内外から様々な立



熱心に講義に耳を傾ける研修員たち

市グリーンMICE推進奨励制度は、札幌市が、環境に配慮した会議運営を実施する会議に対し、その取り組みを奨励するものです。「札幌におけるグリーンMICEの取り組み項目リスト」にある環境に配慮した取り組みを一定数以上実施すると札幌市より、「札幌市グリーンMICE推進奨励」が交付されます。

国際プラザ・CBでは、グリーンMICEにおける先駆的取り組みを進め、札幌の誘致力の強化を目指します。

コンベンションカレンダー

国際コンベンション		
2011年11月	17th Small Engine Technology Conference(SETC2011)	(250名)
2012年2月	The Third Asia-Pacific Conference on FRP in Structures(APFIS2012)	(300名)
国内コンベンション		
2011年11月	創造都市さっぽろシンポジウム	(200名)
11月	市民公開・能楽特別講演会	(200名)
2012年2月	日本産業動物獣医学会	(150名)
2月	平成23年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会	(2000名)
3月	第62回日本木材学会大会	(500名)
3月	日本薬学会年会	(9000名)

国際プラザ・コンベンションビューローでは、札幌市内で開催が予定されている主なコンベンションで、主催者側から公表が許可されているもののみ、ホームページ上の「コンベンションカレンダー」にて公開しております。コンベンションカレンダーは半期に一度更新をおこなっており、約1年先までの開催情報だけではなく、既に開催された過去の情報も提供しておりますので、ご活用ください。

<http://www.conventionsapporo.jp/j/meeting/calendar/calendar.html>

MICEの開拓にかかる意見交換会」を開催しました。

この意見交換会には、札幌・小樽・倶知安・ニセコの各自治体職員のほか、旅行代理店やホテル関係者が集まり、現在の取り組みや課題などについて話し合いました。参加者からは、「屋内や冬季以外の体験型観光資源を増やして、天候や季節に左右されない環境をつくるのが大切だ。」などの声がありました。



30名が参加した第1回意見交換会

し、商談を行いました。

東日本大震災やその後の原発事故問題の影響により、MICEの誘致は依然として厳しい状況にあるものの、その中でも札幌プースには多くのバイヤーが商談に訪れ、中国における北海道に対する人気の高さを改めて感じることができました。帰国後もバイヤーたちとの連絡は行われており、今後も積極的なフォローアップにより、MICEの誘致につながっていくと思います。

Information

インフォメーション

はじめまして

サゾノフ・マキシムさん



はじめまして！ 8月に国際交流員として札幌国際プラザに着任いたしましたサゾノフ・マキシムと申します。札幌の姉妹都市であるノボシビルスク市の出身です。2004年に高校を卒業して、シベリア国際関係大学に入りました。専門は日本学です。大学で日本語だけではなく、日本の歴史、文学、経済も勉強しました。日本に深い興味を持って、大学を卒業してから、ノボシビルスク市立「シベリア・北海道」文化センターに就職いたしました。「シベリア・北海道」文化センターでノボシビルスクと札幌姉妹都市関係の様々な分野で仕事をしました。去年の夏にノボシビルスクの青年訪問団の団長として初めて札幌に来ました。札幌の市民の方々は訪問団をやさしく受け入れてくださり、とても感動しました。今回札幌市の国際交流員として皆さんと一緒に札幌とノボシビルスク、日本とロシアの友好関係を深めることに努力したいと思います。みなさん！ロシア、ノボシビルスクについてご質問があれば、どうぞ、ご遠慮なく、お聞きになってください。よろしくお願いたします。

ダージャーハオ(こんにちは)

賀小雲 (ガ ショウウン)さん



初めまして、4月に中国の上海から参りました国際交流員の賀小雲と申します。上海の華東師範大学日本語学科で四年間日本語を専攻しました。

札幌は豊平川、藻岩山や三角山など豊かな自然、国際感覚を持った親切な市民の方々に恵まれており、とても住みやすい都市だと思います。また、北海道には美味しいものがいっぱいあると聞いており、グルメに目のない私には体重管理はたいへんではないかと思っていながら、道産のお米、牛肉、野菜、ソフトクリーム、スイーツなど思う存分に楽しんでいます。ダイエットはいざというときにまた頑張ります。(笑)

趣味としては、バドミントン、サイクリング、山登りが大好きです。みなさん、登ってほしい山、食べてほしい美味しいものの情報がありましたら、ぜひ気軽に教えてください。一緒に美景とグルメめぐりを楽しみましょう。

交流サロンがさらに利用しやすくなりました

交流サロンは日本人市民、外国籍市民の方々が気軽に出会い、交流していくことをサポートするためのスペースです。この夏から、サロンがより利用しやすくなっておりますので、ご案内いたします。

サロンにはインターネット検索ができるパソコンコーナーがありますが、加えてWi-Fiの利用が出来るようになりました。Wi-Fi機能(公衆無線LAN機能)を有する機器をお持ちの方でしたら、どなたでも無料でインターネットに接続することができます。

また、来館者の皆さんからのご要望もあり、ペットボトル

など、ふたの出来る飲物であればお飲みいただけるようにしました。どうぞゆっくりくつろいでサロンをご利用ください。

サロンの入り口にはフロールアートの皆さんのご協力により、週替わりで色鮮やかな花が展示されています。国際プラザのホームページでもご覧いただくことができます。ぜひ季節ごとのお花をお楽しみ下さい。



交流サロンの様子

札幌国際プラザは今年、設立20周年を迎えました

平成3年7月31日に財団法人札幌国際プラザを設立(平成23年に公益財団法人に移行)し、今年20周年を迎えました。

これまでの20年間、姉妹都市交流(ポルトランド市(米)、ミュンヘン市(独)、瀋陽市(中)、ノボシビルスク市(露)、大田広域市(韓))や各国を知るセミナー、多言語によるお役立ち情報の提供、市内NGO等交流団体との連携事業を通して、多様な交流が生まれる国際都市札幌の実現を目指してまいりました。

また、世界から人々を呼び込む国際会議など(MICE)を札幌・

北海道に誘致し、集客効果による地域の活性化、発展を目指してまいりました。

こうした活動は「ボランティア活動」や来札者への「おもてなし」など、市民のみなさまの支えがあつてのことです。これからも、みなさまとともに札幌の発展に尽くすため、「多文化共生」、「MICE」をキーワードに事業を展開してまいります。

なお、20周年を記念して、今後さまざまな事業を計画しておりますので、ご注目ください。

キーワード

「多文化共生」

国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認めあい、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくことです。

「MICE」

国際会議や企業の報奨旅行など、多くの集客を見込むことのできるビジネス交流の総称で、Meeting(企業の会議)、Incentive Travel(企業の報奨旅行)、Convention(国際会議や学会)、Event/Exhibition(イベントや展示会)の頭文字をとったものです。